

フッ素の塗布

フッ化物歯面塗布

フッ化物歯面塗布は、歯科医師、歯科衛生士が行うむし歯の予防法です。
うがいをする必要がないので、低年齢やうがいのできない人に対するフッ化物応用として有効です。
方法は以下の3通りがあります。

トレーでフッ素

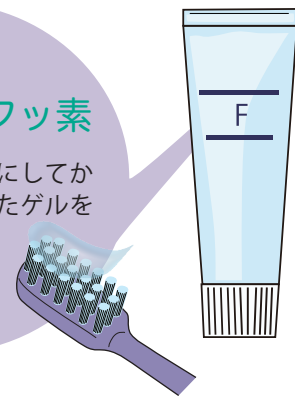
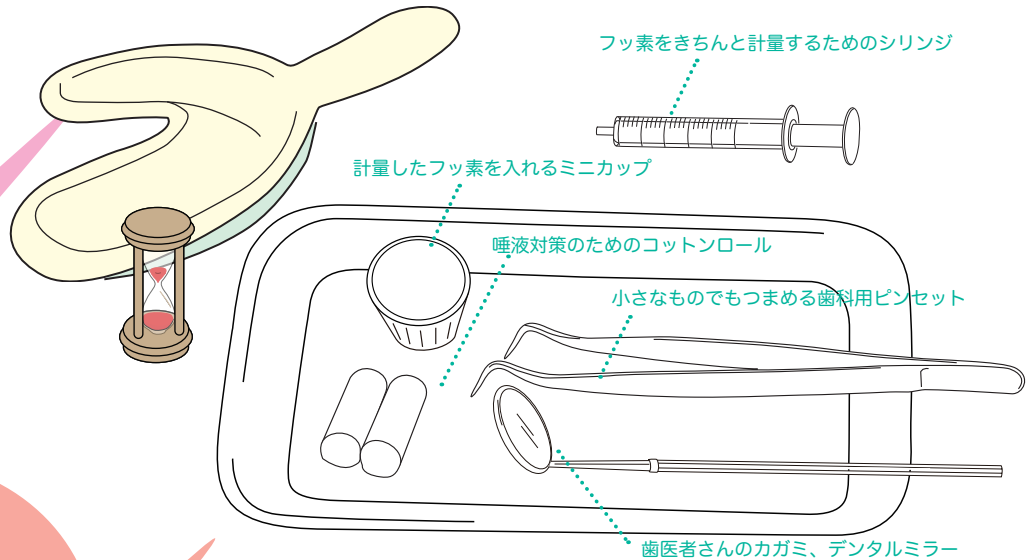
専用の紙トレーにフッ素をしみこませ、それをお口にしばらく入れておきます。

綿球でフッ素

歯の表面をキレイにしてから、小さな綿のボールでフッ素を歯に塗ります。

歯ブラシでフッ素

歯の表面をキレイにしてから、フッ素の入ったゲルをブラシで塗ります。



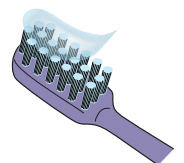
文京区の保健サービスセンターでのフッ化物歯面塗布

文京区の保健サービスセンターでは、昭和43年6月から1歳半から3歳までの乳幼児の希望者に、フッ化物歯面塗布を実施しています。フッ化物の応用は乳幼児のう蝕予防に極めて効果的です。またこれをきっかけに乳幼児期からの定期的な健診や予防処置を続けていくことは、生涯自分の歯で食べる健康な生活づくりにつながります。

塗布方法：歯ブラシゲル法

(歯ブラシの毛先にゲル状のリン酸酸性フッ化ナトリウム 1ml をつけ歯面に塗布)

塗布の期間：半年ごとに塗布の実施をしています。(予約制、有料)



フッ化物歯面塗布の手順

始める前に、日常のケアや定期健診の重要性とフッ化物歯面塗布の効果や方法などについて説明をします。終了後は注意事項など、塗布後の保健指導を行います。

トレー法

既製、あるいは個々人の歯列に合わせたトレーに溶液又はゲル状の薬剤をのせ、かむことによって歯面に接触させて塗布します。スポンジマウスピースを用いる方法もあります。

2%リン酸酸性フッ化ナトリウム (APF)

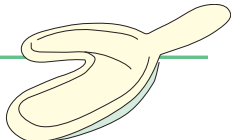
溶液・ゲル・フォーム

2%フッ化ナトリウム (NaF) 溶液・フォーム

1

歯面清掃

可能な範囲で清掃。



2

トレーの選択

口腔に合ったトレーを選択し、トレーの大きさに合った塗布紙をセット。

3

トレーへの薬剤応用

スプレーや綿、紙に2ml以下の溶液、又はゲルを染み込ませる。ゲルの場合は、ディスポーザブルシリンジで2ml計量。

4

歯面乾燥

エアで歯面乾燥、又は綿球でふき取り。

5

トレーの装着

トレーを口腔内に挿入し、歯列に圧接して3~4分間軽くかませる。(排唾用チューブを連結し排唾することが望まれる)

6

トレーの除去

ゲルの場合には、口腔内に残った余剰の薬剤を綿球で軽くふき取り、口の中にたまった唾液を吐き出してもらう。

綿球法

最も基本的な方法で、綿球又は綿棒に溶液タイプの薬液を浸して歯面に塗布します。

2%リン酸酸性フッ化ナトリウム (APF) 溶液

2%フッ化ナトリウム (NaF) 溶液

2

簡易防湿

ロール綿で対象歯を孤立。

3

歯面乾燥

エアで歯面乾燥、又は綿球でふき取り。

4

薬剤の塗布

2mlの溶液をカップに取り、小綿球(又は綿棒)を浸し、3~4分間、歯面が湿潤状態を保つように繰り返し塗りつける。隣接面や小窩裂溝では軽く圧接するようにして浸潤させる。ゲルを用いる場合は、歯面全体に塗布したことを確認し、3~4分間、開口した状態で保持。

5

防湿の除去

口腔内に残った余剰の液を綿球で軽くぬぐい、防湿用ロール綿を取り除く。ゲルの場合は、歯面の余剰ゲルをふき取る。

歯ブラシゲル法

歯ブラシを用いて歯面にゲル状タイプの薬剤を塗布、主に低年齢児を対象とした簡易法です。

2%リン酸酸性フッ化ナトリウム (APF) ゲル

4

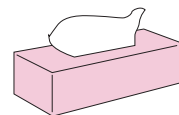
薬剤の塗布



ゲルをパイル皿のくぼみにすり切り1杯(約1ml)とる、又はシリンジで計量。少量ずつ歯ブラシにとり、1~2歯ずつ歯面全体に塗り広げる。隣接面や小窩裂溝にはゲルを押し込むように塗布。最後の部位に塗布後1分間、開口した状態で保持。

5

余剰ゲルの拭き取り



歯面に付着したゲルを軽く綿球でふき取り、口の周りに付着したゲルをティッシュペーパーなどでふき取る。

6

防湿の除去

防湿用ロールワッテを除去。

【注意事項】

- ・ゲルの量は1mlを上限とする。
- ・仮に全量を飲み込んでも急性中毒の危険はない。ただし、時に軽度の嘔吐を起こすことがある。(ゲルを飲み込みやすい、粘性が高い、等のため)
- ・食直後の塗布は避ける。
- ・防湿、残留ゲルの除去に十分注意する。

終了後、唾液を吐き出してもらう

【フッ化物歯面塗布の注意事項】

- ① 塗布直後で口にたまった唾液は、そのまま吐き出してもらいます。(うがいは不可)
- ② 塗布後、30分~2時間はうがいや飲食を避けてもらいます。
- ③ 塗布を繰り返すことの必要性を説明し、再塗布への動機付けを行い、次回のリコールを決めます。(次回塗布の時期の目安についても説明します)

※ 万が一、嘔吐・腹痛・下痢などの症状がある場合は、カルシウムの多い食品(牛乳など)を与えて様子をみます。症状が改善しない場合は連絡していただくよう伝えます。